

2020年10月6日

通貨ニュース

フィリピン:10月金融政策会合～政策金利の現状維持と政府財政支援を発表

フィリピン中央銀行(BSP)は1日に開催した金融政策会合で、政策金利の翌日物リバースレポレートを従来の2.25%に据え置いた(図表1)。上限金利の翌日物貸出ファシリティ(OLF)レートおよび下限金利の翌日物預金ファシリティ(ODF)レートもそれぞれ2.75%と1.75%の現状維持となった。ブルームバーグの事前予想では市場関係者の20人中19人が現状維持を見込んでいた。なお、BSPはこれまで計1.75%ポイントの利下げを実施しており、政策金利は過去最低水準で推移していた。

今回の政策決定について声明文では、ロックダウンが段階的に緩和されて経済活動が段階的に再開されている状況や、落ち込んでいた国内経済が底打ちを確認し、回復の兆しを見せつつあるとして、金融政策を現状維持とした。また、物価動向については、インフレ目標である前年比+2.0%～+4.0%の下限付近で推移しており、今後数年間にかけても新型コロナウイルスの感染終息の目処が立つまでは下押し圧力が続く可能性がある点が言及された。以上を踏まえて、国内のインフレ水準と経済の回復動向を注視しつつ、前回同様、必要最大の金融緩和政策を実施していく姿勢を示した。

アジア諸国の中央銀行の動向を見てみると、景況感の改善と景気の底打ちが次第に確認されていることを背景に、政策金利を据え置く動きが優勢となっている(図表2)。フィリピンに限らず多くの中央銀行で、新型コロナウイルス感染第二波の到来など大きなリスク要因が浮上しない限り、これまでの政策効果を確認する観点から政策金利の引き下げを見送る傾向が続くことが考えられる。

また、新型コロナウイルス対策の景気支援として、徐々に財政政策が主流となる動きも出てきている。フィリピン政府は、9月に中小企業向けの資金繰り支援や医療従事者の雇用強化を見据えた新型コロナウイルス対策第2弾(約3600億円規模)を決定した。その傍らで財政赤字は急速に拡大しており(図表3)、20年1～7月の財政収支は、7006億ペソ(約1兆5270万円)の赤字を記録した。これは前年同期比で約6倍の水準となる。

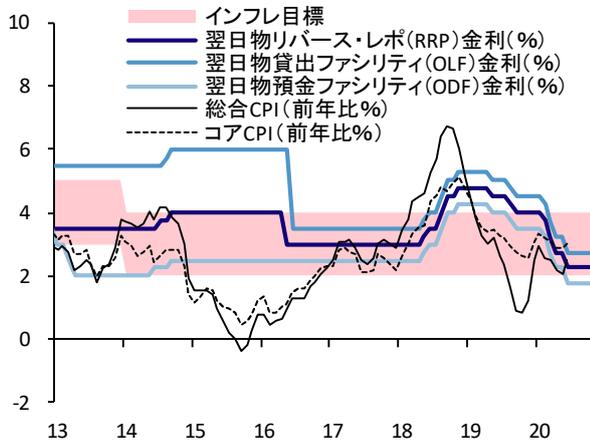
かかる中、今回会合にてBSPは財政赤字補填を目的に政府が要請していた5400億ペソ(約1兆1770億円)の追加支援を承認した。中央銀行が政府財政の支援を実施する財政ファイナンスはコロナ禍を機に新興国でも見られるようになった。PHPへの影響は現状些少ではあるものの、今後の動向を見据える上で、財政ファイナンスの常態化については都度確認すべき要素となる。

PHPの動向については、9月以降、これまでのドル安に調整がみられる中、一時的に安値方向に動く可能性がある。トランプ米大統領の新型コロナウイルス感染によって不透明感は増したものの、米国で追加経済政策が決定されればドルの過剰感を増幅させ、ドル安への回帰を方向付ける展開となりうるため引き続き注視したい。国内要因としては足許の貿易赤字の拡大やCPIの軟調推移

市場営業部
マーケット・エコノミスト
堀 堯大
03-3242-7065
takahiro.hori@mizuho-bk.co.jp

はさほど重要視されていない様だ。今後、新型コロナウイルスの感染動向や OFW 送金実績および財政ファイナンスの運営状況などが PHP の動向に影響を与えるが、それらはドル側の要因より軽微なものと考える。

図表 1: 政策金利とインフレ目標 (%)



出所: フィリピン中央銀行、フィリピン国家統計局、ブルームバーグ、みずほ銀行

図表 2: アジア諸国の中央銀行の動向

| | | 現在 (%) | 直近の政策動向 | |
|------------------|----------------|--------|-----------|--------------------|
| | | | 日付 | 決定事項 |
| エマージングアジア | | | | |
| 中国 | 1年物貸出基準金利(LPR) | 3.85 | 2020/9/21 | 現状維持 |
| インド | 翌日物レポ金利 | 4.00 | 2020/8/6 | 現状維持 |
| インドネシア | 7日物リバースレポレート | 4.00 | 2020/9/17 | 現状維持 |
| 韓国 | 7日物レポ金利 | 0.50 | 2020/8/27 | 現状維持 |
| マレーシア | 翌日物金利 | 1.75 | 2020/9/10 | 現状維持 |
| フィリピン | 翌日物金利 | 2.25 | 2020/10/1 | 現状維持 |
| タイ | 翌日物レポ金利 | 0.50 | 2020/9/23 | 現状維持 |
| ベトナム | リファイナンス金利 | 4.50 | 2020/5/12 | 利下げ (▲0.5%ポイント) |

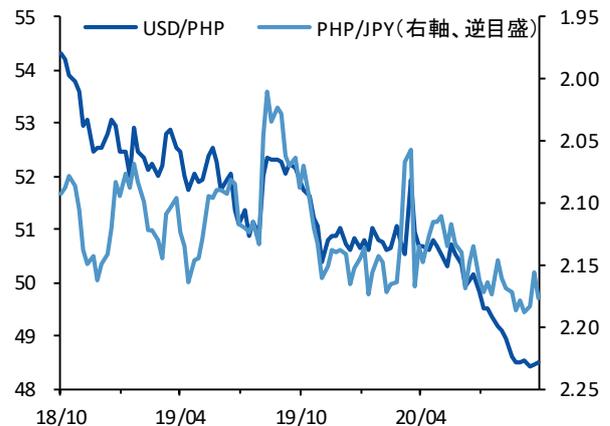
出所: ブルームバーグ、みずほ銀行

図表 3: フィリピン中央政府歳出入 (前年比%)



注: データは 6 か月移動平均を使用。
出所: フィリピン財務省、Macrobond、みずほ銀行

図表 4: PHP 為替動向 (対ドル、対円)



出所: ブルームバーグ、みずほ銀行

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。なお、当行は本情報を無償でのみ提供しております。当行からの無償の情報提供を望まれない場合、配信停止を希望する旨をお申し出ください。